

【生活科】教科提案

五感を通して感じ、表現することで気付きの質を高める生活科 ～リアルな活動を通して～

1. 研究テーマ設定の理由

生活科のねらいは、具体的な活動や体験を積むことで、「自立への基礎を養う」ことである。自立への基礎について、幼児期から学童期への移行期である低学年の発達課題とのかかわりで考えると、以下の通りである。

- ①言語…「話しことば」から「書きことば」へ。体験したことを言語化する力。
- ②社会…自己中心性から集団意識へ。自他の区別とコミュニケーション。
- ③認識…社会や自然の認識。時間や空間の連続性や系統性の獲得。数量や形の認識。
- ④感情…相手の反応や、対象との関わりを通じた感受性。意欲の形成。
- ⑤身体…手指の器用さ、調整力（柔軟性、平衡感覚、反射能力など）の形成。

2. 研究仮説

気付きを表現することで認識力を高め、視野を広げ、対象とのかかわりを深めれば、気付きの質を高められる。

3. 生活科における「問い続け、学び続ける子どもたち」

「見る・聞く・嗅ぐ・触れる・味わう」といった五感を通じた活動により、ひと・もの・ことへのかかわりを深めることが「問い続ける」活動であり、その過程での気付きや個別的な事実の認識が生活科での「学び」である。伝えるための表現のみならず、気付きを確かめるため、同じことを繰り返し試す姿も大切な「問い続ける」姿である。

個別的な事実を認識する力を高めるためには、言語化を図りながら様々な方法で気付きを表現し、コミュニケーション力を高める。

4. 生活科で身に付けさせたい資質・能力及び態度とものの見方・考え方

めざす力	つなぐ力	実感する力
自然の不思議さや社会とのかかわりについて関心をもち生かそうとする力	表現して他者との交流を深める言語力やコミュニケーション能力	社会や自然に働きかける中で気付き、具体的で個別的な事実を認識する力

5. 研究内容

- (1) リアルな体験（学習と生活の結合）“Real, Raw material”
- (2) 季節を感じる（季節の遊び、旬の食材、栽培や飼育）“Real time”
- (3) 人とかかわる “Relation”
- (4) 充実した表現 “Representation”
- (5) 異質性の認識（社会や世界を知る）“Respect”

6. 研究評価

研究内容の（１）～（５）に基づき、子どもが表現したものや授業における言葉、振り返りを用いて研究評価を行う。